

- 桜ヶ丘地区「まちづくり協定」締結 (P.1)
- 平成21年度こうべまちづくり学校(基礎講座)を終えて (P.2)
- 西出・東出・東川崎の空間形成② (P.3)
- 発信!まちセン研究ネット③ (P.4) ほか (P.4)

発行：神戸市立 こうべまちづくり会館

バックナンバーはこちら <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

## 桜が丘地区(西区)まちづくり協定締結

～まちのルールは、私たちの手で～

### ■桜が丘地区の概要

桜が丘地区は西区の北部、神戸電鉄栄駅の南約1kmに位置する約135haの大規模ニュータウンです。



昭和46年から宅地開発に着手され、当時の民間開発事業者が建築時のルール等(西神戸ニュータウンのしおり)を取り決め、紳士協定として運用してきました。平成17年に開発業者が撤退し、周辺緑地が不動産業者等に転売され宅地開発されつつあるなど、ルールの維持が難しくなってきたことから、法的拘束力をもつ新しいまちづくりルールの検討を始め、平成18年8月まちづくり協議会(桜が丘地域協定委員会)が設立されました。



その後、定期的な勉強会、アンケート調査、ニュースの発行などの様々なまちづくり活動を行い、平成20年5月には、「まちづくり提案」を神戸市に提出

しました。それをもとに「桜が丘地区地区計画」が都市計画決定されるなど協働と参画のまちづくりの実績も上がっています。

このたび、桜が丘のまちづくりルールのうち地区計画に定められないものについて、まちづくり協定で定めることになり、平成21年6月30日に桜が丘地域協定委員会と神戸市との間で、「桜が丘地区まちづくり協定」が締結されました。



あわせて、住民の自主管理ルールである「まちの申し合わせ」も策定したほか、今後は協定の運用に当たって、地域での体制づくりや必要に応じた細則づくりにも取り組んでいく予定です。

### ■まちづくりルールの内容

地区計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築物等の用途の制限</li> <li>・敷地面積の最低限度(200㎡)</li> <li>・壁面位置の制限</li> <li>・高さの最高限度</li> <li>・出入口の制限</li> </ul>
まちづくり協定	<p>(※戸建住宅地区の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤高の変更は原則禁止とし、新たな造成は前面道路高さに合わせる</li> <li>・建築物等の色彩は、周辺環境に調和するよう配慮する</li> <li>・屋外広告物は表示面積合計で1㎡以下、3枚以下、その高さは3m以下とする</li> <li>・車庫の設置位置、構造について制限する</li> <li>・2世帯住宅は外観上長屋・共同住宅とは見えない意匠とする</li> </ul>
申し合わせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地を駐車場とする場合、周辺に迷惑のかわらない対策を講じる</li> <li>・空き地および空き家の所有者や権利者は、近隣に迷惑をかけないよう管理に努める</li> <li>・宅地の植栽が敷地からはみ出さないよう剪定に勤める</li> <li>・道路境界の塀や柵は、極力見透しの良いものとする</li> <li>・新築および増築時等に際して、「着工届」「完了届」を届け出ることとする</li> <li>・住宅建築上のマナーを定める</li> </ul>

(都市計画総局地域支援室)

# 平成21年度 こうべまちづくり学校〈基礎講座〉を終えて

平成14年に創設され、今年で8年目になる「こうべまちづくり学校」が、5月28日から6月25日まで、当会館で開催されました。

今回は、新型インフルエンザ騒動で一部日程変更を余儀なくされましたが、いずれも各分野の第一人者の先生方を講師にお招きして、全5回の「基礎講座」を無事に終え、計53名の方が修了されました。



第1回

5月28日  
(木)

## まちおこしのすすめ

片寄 俊秀 氏 (大阪人間科学大学環境・建築デザイン学科教授)

「まちづくり道場」を主催し、地域の人材・資源をいかしたまちおこしの実践の中から、まちづくりに取り組む姿勢(まちづくり道場十訓)や、多くの実践的研究事例(「いまひとつパッとしないまちをパッとさせる方法」、「花鳥風月」のまちづくりなど)が紹介されました。



第2回

6月4日  
(木)

## 神戸のまちづくり・ルールづくり

三輪 康一 氏 (神戸大学大学院工学研究科准教授)

市民まちづくりの進め方、まちづくりのルールの種類(地区計画・建築協定・まちづくり協定・景観形成市民協定)とその選択、眺望景観の誘導、エリアマネジメント(地域の人々が自ら環境を維持管理)の考え方や市民まちづくりを支える制度などについて、事例を交えて説明がありました。



第3回

6月11日  
(木)

## 「安全安心まちづくり」-人と人とのつながりを考える-

渥美 公秀 氏 (大阪大学大学院人間科学研究科准教授)

自身の活動経験をもとに、日常のコミュニケーションが防災につながる「イツモ防災」、楽しいイベントを通じた「防災と言わない防災」など、気負いすぎない防災活動のしかけづくりや、中越沖地震等の被災地における「足湯」を通じた被災者とボランティアの交流事例が紹介されました。



第4回

6月18日  
(木)

## これからの神戸の地域活動

立木 茂雄 氏 (同志社大学社会学部教授)

地域の安全・安心のため市民力を高めるうえで、ソーシャルキャピタル(人間関係の豊かさ=社会関係資本)の役割について説明がありました。また、ソーシャルキャピタルを高めるための5つの軸からみた地域活動マップが紹介され、聴講者との活発な意見交換が行われました。



第5回

6月25日  
(木)  
(当初予定5/21)

## 神戸のまちの歴史

田辺 真人 氏 (園田学園女子大学名誉教授)

神戸の風土と「須磨」や「武庫」など阪神間の地名の由来、古代~近代に至る神戸の歴史の中で、港や城の果たした役割や外国文化との触れ合いのほか、120年目を迎える市制の変遷などについて、さまざまなエピソードを交えながら語られました。

# 西出・東出・東川崎の空間形成②

## 空間像研究会の活動 その11

大塚 映二（空間像研究会）

### 4. ご当地クイズの答え

まずは、前回（西出・東出・東川崎の空間形成①）出題したご当地クイズの答えです。

- (a) 西出町・東出町のいわれ：兵庫津（江戸時代の兵庫＝港町）の人口増加に伴い、本来の町域の東方にはみ出るように形成されたので、「出町」と呼ばれるようになりました。新進の船乗りたちでおおいに発展しました。（興味のある方は、司馬遼太郎『菜の花の沖』をお読みください。）
- (b) 東川崎町のいわれ：正解は、旧湊川河口の東にできた町なので東川崎町。旧湊川の西側（七宮神社あたり）にはかつて川崎町という町がありました。ここに川崎造船所があるからだと思っている方が多いのですが、川崎造船は川崎正蔵氏が創業したので、創業者名が社名になっています。ちょっとややこしいです。
- (c) 川崎本通の前身：ここは湊川が流れていた跡を埋め立ててできた道です。川跡をさかのぼると、神戸随一の歓楽街であった新開地につながります。

### 5. 今昔物語

ご当地クイズからもわかるように、この地域は江戸時代から明治時代にかけて、神戸（兵庫）の発展の中心に位置していました。最近でこそ歴史の表舞台から遠ざかっていますが、見方によってはそのおかげで、「古き良き町」の香りを今に残す魅力的な空間を持つ町となっています。

前回、小説『太陽の子』の舞台として紹介した写真（1981年）の場所はいまどうなっているのでしょうか？写真の特徴を頼りに探してみましよう。

ご覧のとおり、建物は建て替わりましたが、路地は



そのままです。この路地は、旧湊川河口に発達した扇状地の地形に沿ってできた道です。

もうひとつ1981年と2009年を対比してみます。

上の写真は、1995年の震災まであった銭湯です。残念ながら再建されず、跡地には普通の民家が建てられましたが、塀の土台はそのまま残され、街並み継承への努力が見てとれます。



### 6. 路地を生かしたまちの再生

このように、当地域の空間を語る上で、路地が織り成すヒューマンスケールの空間がポイントとなります。町の空間に生活感がにじみ出していると言ってもいいでしょう。隣接するハーバーランドと歩き比べてみると、“人間臭さ”の違いが際立ちます。

住環境整備事業においても、路地をはさんでコミュニティが形成されてきた下町のよさに敬意を払った整備が行われました。写真は東川崎町7丁目で、震災をはさんで連続的に実施された街区整備事業です。上は、



震災前に事業着手した「下町街区整備事業」で、下は、震災復興のための「街区共同再建事業」です。下の写真を見て感じていただけるように、従来の2階建ての家並みとみごとに調和した4階建ての共同住宅です。

（次回③は、歴史と空間のお話です。）

## 発信！！まちセン研究ネット③ 技術者のための国際関係研究塾

「まちづくり」と「国際関係研究」。何の関係？と訝るかもしれません。当然です。実はこの研究塾の前身は「神戸コンパクトシティ研究会」で、5年間に30回ほど会を重ねてきました。コンパクトシティはEU（ヨーロッパ連合）が打ち出した政策で、交通問題や、環境問題、さらに都市の活力の問題を分権的視点で解決しようとするものです。

日本の都市を今や席卷するのは多国籍化したコンビニやコーヒー・ショップ、ファミリー・レストランなどで、まちは地域性を失い、日本固有の味や調理法が忘れ去られようとしています。21世紀になりグローバル化はさらに進みます。そんな時代にコンパクトシティを目指す主役は、「グローバル市民（think globally, act locally）」です。まちづくりにもグローバルな視点で対応できるようにするために、「国際関係」の基礎を理解する必要があると始めました。名付けて「技術者のための国際関係研究塾」。全く素人の技術者が参加し、寺子屋風に議論しながら楽しく学ぶという意味を込めています。ピスマルクの言葉に「愚者は経験に学ぶが、賢者は歴史に学ぶ」があります。歴史を通じて国際関係を学び、現代のグローバル社会を少しでも理解できればと、（原則）毎月第4木曜日夜に塾を開いています。  
（塾頭：中山久憲）



## まちづくり会館 展示のお知らせ

### 1階オープンギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主 催 者
8月	(～17日) 神戸空港・ベイシャトル	神戸市みなと総局
	(18日～) 神戸市における景観まちづくり	神戸市都市計画総局
9月	神戸ピエンナーレ2009	神戸市国際文化観光局
10月	(～15日) 防犯パネル展	神戸市危機管理室
	(16日～) 東南海・南海地震に備えて	

※展示期間が変更になる場合があります。

### 地階ギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主 催 者
7月30日(木) ～ 8月4日(火)	[企画展]橋本邦彦・突々和夫 二人展<水彩・木版画>	こうべまちづくり会館
8月6日(木) ～ 8月11日(火)	デジタル書作家協会展<デジタル書道>	デジタル書作家協会
8月13日(木) ～ 8月18日(火)	吉岡充水彩画展(播磨と神戸40景)	吉岡 充
8月20日(木) ～ 8月25日(火)	麓和会 洋画作品展<油彩>	麓和会
8月27日(木) ～ 9月1日(火)	きんもくせいの会 絵画展<水彩等>	きんもくせいの会
9月4日(金) ～ 9月11日(火)	劉 素真と神戸墨酔会 水墨画展	神戸墨酔会
9月10日(木) ～ 9月15日(火)	第5回 回転ドアの仲間たち 油彩展	回転ドアの仲間たち
9月17日(木) ～ 9月22日(火)	森の会展<水彩>	森の会
9月24日(木) ～ 9月29日(火)	第41 兵庫倶楽部写真会 写真展	兵庫倶楽部写真会

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



### こうべまちづくり会館

開館時間：午前10時～午後6時（水曜日休館）

場 所：元町商店街4丁目西端の南側角

地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分

神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分

「西元町」東口から東へ5分

JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分

〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546

ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

### コミュニティ相談センター（まちづくり会館4F）

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談

受付：午前10時～午後6時（水曜日休館）

ただし、印刷は5時まで

電話・FAX：078-361-4565